

カ 何度か歌ったり、旋律楽器で演奏してみ
てまとまったならば、発表して聴き合う。

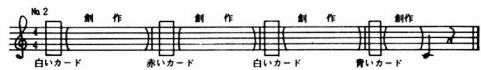
発表のとき、友だちどうして良くできた
ところは認めあわせる。不自然な旋律につ
いては、教師が個別に指導をするが児童の
発想を大切にするために最小限の手なおし
とする。

キ 発表した児童の選んだ音と同じ音を使っ
て、全員で創作してみる。

ク できた児童は順に発表して比較する。

ケ よくできたものを教師が板書し、全員で
表現してみる。

＜創作例No.2＞



ア 1小節めの初めの音を白い階名カードの中
から音を選び出し、五線紙に書きこむ。

イ 選んだ音が手がかりに声や旋律楽器で自
由に表現する。

ウ 2小節の初めの音を赤い階名カード（ファ
・ラ）の中から好きな音を選び出し、記譜
する。

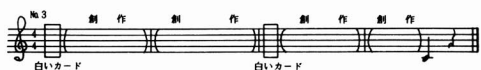
エ その音から1小節の旋律と関連づけなが
ら声や旋律楽器で自由に表現する。

オ 3小節、4小節をアからエまでと同じ方
法で表現する。

カ 1小節から4小節まで続けて歌ったり、
楽器で演奏したりしてより自然な旋律にま
とめる。

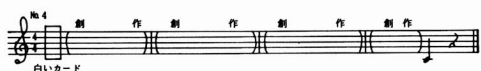
以下No.1の場合と同じようにする。

＜創作例No.3＞



No.1, No.2に順じて表現する。

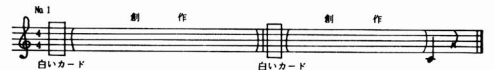
＜創作例No.4＞



No.1, No.2, No.3に順じて表現する。

② 表現したものを記譜する方法

＜創作例No.1＞より



ア 1小節の初めの音を白い階名カードの中
から好きな音を選び出し、記譜する。

イ その音から自由に声や楽器で表現する。

ウ 表現した旋律をリズムや音高を確かめな
がら五線紙に記譜する。

エ 2小節の初めの音をアと同じようにして
選び、記譜する。

オ 1小節と関連づけながら2小節めを表現
する。

カ 表現したものをウと同じ方法で記譜する。

キ 発表などについては前の扱いと同じ。

※ No.2, No.3, No.4についてはこれと同じに
扱う。

③ かんたんな詩に旋律をつける方法

＜創作例No.5＞



ア ことばのまとまりを考えて、それぞれの
ことばを小節に分ける。

イ 何回も声や楽器で表現してみる。

ウ 以下、最初の例と同じようにする。

4. おわりに

今回の創作指導を通して次のことがわかった。

- (1) 自作の階名カードから音を選ぶことにより、
創作の糸口を容易につかむことができた。
- (2) 楽譜に対する理解ができて、記譜することに
も真剣に取り組む児童が多く見られた。
- (3) 楽しく発表できた。

一方、今後の課題としては、カードを使っても
創作のできない児童への手だてである。また、今
回は、創作の基礎指導として、その意欲を持たせ
ることに重きをおいたが、更に、一人一人の創造
性を高めていくための工夫である。

これからも創作指導のあり方の改善・充実を目
指し研究を深めていきたい。